

■前回の改善計画の進捗状況

項目	評価結果	改善計画	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)	サービスに求められる事項が基本理念等に組み込まれており、職員にも教育され、実践に向けて努力をしている。 事業所の多職種及び主治医や関係機関ともこまめに連携し、対応を行っている。事業所内外の情報共有に努力しており、事業に必要な人材育成やリスク管理法が行っている。	①これまで以上に多様な利用者の対応が必要になることが予測できるため、事例毎に学習・訓練を重ねて質向上を図っていく ②災害時に備えた実践的な対応訓練の強化	①について 新規相談があると、管理者・介護職チーフ・担当ナースが、事前面談に伺うと共に、利用者・家族にも事業所見学や試食も含む通い体験等を行ったうえで登録を決定してきた。その方に必要な疾患や処置等の学習や演習も、その都度実施し、経過は総合マネジメントカンファレンス等で評価・修正している。 ②について 施設全体で、年間計画に基づいて訓練を行っている。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	利用者・家族との対話を大切に、サービス開始時から事業所内での情報共有を徹底し、原則月1回の総合マネジメントカンファレンスを軸に、全体でケアプランの評価・修正を行っている。職員はご利用者の受け持ち制をとっており、看護・介護計画、手順書を作成し、誰が行ってもサービスの質を保てるよう努力している。	①利用者数が増えても、丁寧な対応を維持していく ②利用者・家族・職員間、関係機関等との対話を大切に、多様な切り口で多様な対応を工夫して行えるようにしていく	①について 年度中盤には、目標登録者数に達した。年末のCS調査では、昨年と変わらない評価を戴けた。 ②について 利用者・家族・職員間・連携期間等との小まめな連絡・調整を心がけ、業務改善に繋げた。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	事業所内での多職種連携に努め、関係機関等との連携も積極的に行うよう努力している。地域や行政の連携会議にも参加し、情報収集や交流を行っている。運営推進会議も定期開催しており、必要事項の報告や意見聴取を行って改善に繋げている。	①これまで同様に積極的に利用者を中心に置いた効果的な連携を進めていく ②運営推進会議の構成員の多様化を図る	①について II-1-②同様。 ②について 今年度は、地域代表の方が1名増えると共に、一部の構成員も交代している。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	医療ニーズの高い利用者も受け入れており、宿泊対応から看取りまで対応している。介護職も特定行為の研修を受け緊急対応に備えられるよう努力している。地域包括ケアシステムの取り組みや地域からの講師依頼、事業所に入っている複合型施設としての研修や行事も行い、地域との交流を図っている。	①複合型施設の中の看護小規模という特性を生かしたカフェの取り組み開始 ②地域と協働して、地域との交流を増やしていく	①②について 単独のカフェではなく、施設全体で「地域交流委員会」を立ち上げ、施設行事としての催しを開催した。その中で、地域の自主活動発表等も行っている。また事業所としては、地域の行事や講師依頼等への協力対応を行っている。
III. 結果評価 (評価項目42～44)	新規事業であり、まだ登録定員数が満たされていないため、現状では概ね達成しているが、2/3達成と評価した。登録者の80%以上が要介護3～5とケア濃度が高い方の為、病状が不安定になりやすい現状もある。こうした、現状を踏まえ、登録者個々に必要なサービスを柔軟に提供してきた。 登録者数の増加を図るとともに、これまでの質以上のサービスを提供できるよう努力を続けていって欲しい。また、設問の中に「人工呼吸器」対応の1項があるが、看護小規模多機能の施設要件に対応できるだけの設備要件がなく、また、このレベルの方は、病院対応を望まれる傾向もあるため、評価に苦慮した。 合わせて、重症度の高い利用者に対応していくために、介護者の特定行為の認定に向けての支援の強化も必要と感じている。	①安全や看護・介護の質の確保を踏まえつつ、登録者増を図っていく ②利用者の状態を踏まえた、柔軟なサービスの継続	①について 大きな事故はなく経過した。リスク感性を磨く意味での「レベル3」ヒヤリハットの事故同様扱いを継続している。届は速やかに出されており、同日中にカンファレンスや朝礼等での分析と改善を心がけてきた。 ②について II-1-②同様。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括をする。